

神話伝説の山里

たかちほごう

「高千穂郷」通信

246

令和6年3月号



日之影町職員 なかやま 中山 ともき 智貴さん「わけもんの主張」で最優秀賞！

若者が選挙や政治について意見を発表する「第18回わけもんの主張」の県大会（2月17日（土）於：県庁）で、日之影町町民福祉課に勤務する中山智貴さん（28歳）が、見事、最優秀賞を受賞しました。中山さんは、熊本県菊池市出身で県内の民間企業に就職しましたが、「本当に困っている人にサービスを届けることができる公務員になりたい」という思いが捨てきれず、その企業を退職し、延岡市出身の奥さんとの結婚を機に、令和4年に日之影町役場に入りました。

「熊本の同級生との何気ない会話の中で、賃金や転職のこと、子育てのことが話題になり、もっと若い人たちが政治に参加する必要があると感じるようになった」と言う中山さん。

県大会では、原稿は一切見ずに、会場の人たちの目を見て堂々と自分の考えを訴えました。審査員からは、「若者への強いメッセージを感じた。子どもたちの将来の投票につながる『親子連れ投票』を訴えてくれてとてもありがたい」と高く評価されました。



演題 「未来を担う若者の声で、政治をかえる」

— 抜粋 —

政治に対して、私たちの声を届け、意見を反映させられる最大の機会が「選挙」です。

国会議員をはじめとする政治家は国民の代表と言われていますが、そうではなく、選挙に行った人の代表だと私は思います。少子高齢化により、若者よりも高齢者の人口が圧倒的に多く、高齢者は選挙によく行きますが、若者の投票率は低いままです。その結果、日本の政治はシルバーデモクラシーという高齢者に有利な政治が行われていると言われてしています。

しかしこのような状況下でも、**今後の日本を支えるのは若者です**。私は日本の未来を担う若者に対し、十分なバックアップ、支援が乏しいという矛盾した状況にあると強く感じています。

学生であれば、受験、就職活動、子育て時期であれば、保育所や育児費用、そして、将来的には年金や介護など、「いま」と「これから」を生きていくうえでの問題や不安は様々あります。でも、ただ現状に嘆いているだけでは何も変わりません。

若者の皆さん選挙に行きましょう。みなさんの声で政治を変えましょう。

若者のための政策を国会や地方議会で実現させるには、投票を通じて若者の存在を意識させることが一番重要だと思います。

若者の投票率を上げるためにも、小学校教育の場においては主権者教育を積極的に導入し、模擬選挙など子どもの頃から政治参加や意思決定の習慣化を身に付けていくべきだと思います。それが未来の有権者を育てることに繋がるのではないのでしょうか。

また、選挙でのインターネット投票などをマイナンバーカードを活用し本格的に検討すべきだと思います。

私は役場へ入庁し、これまで何度か選挙事務に従事させていただきました。投票所へいらっしゃる有権者の方の中で、選挙権を持たない子供を連れて家族みんな投票に来る人を見て、個人的にすごく良いな、と憧れを感じました。

実際に、**親子連れ投票は子供の将来の投票につながっているというデータもあります**。**私が親の立場になったら、子供を連れて選挙に行きたいと思っています**。そしてそんな光景が日本でももっと当たり前になったらいいなと思います。

これからの日本を担い、未来を生きる者として、長期的な視点でどのような日本になってほしいか、投票という手段を通して表明することは**私たち若者世代の義務であり、大きな責任だと思います**。

たかが一票、されど一票。私たち若者の一票の積み重ねで日本は変わります。

だから、私は次の選挙にも必ず行きます。

若者のみなさん、**一緒に選挙に行き、より良い日本の未来をつくっていきましょう**。



高千穂小学校の4年生が じん だい がわ 神代川 で

河川環境のモニター活動 を行いました！



説明をする西臼杵支庁土木課
はるき 松元 暖希 技師

県では、河川事業を実施した箇所の環境調査を目的として住民の方々による「身近な水辺のモニター」活動を実施していますが、2月27日（火）に、自然や景観、川と生活との関わりの再生を目指して多自然型で河川工事を進めている神代川について、地元小学生にモニター活動を行っていただきました。

神代川は高千穂町の中心部に位置し、アメノムラクモノミコトが「水の種」をもたらしたことで水が湧いたという伝承が残る「あめのまない天真名井」からの水が流れ込む川で、かつては生活用水として使われるだけでなく、子供たちが川遊びをする憩いの場でもありました。

しかし、昭和40年代に行われた神代川の改修工事によりコンクリート張りの川となったことで、豊富な水量や自然環境が失われ、住民の皆さんとの関係も次第に薄れていったため、西臼杵支庁では、自然豊かで地元で愛されていたかつての神代川の姿を取り戻すべく、平成23年度から河川再生工事を行い、令和6年度中に完了予定です。

児童たちは、神代川の歴史や工事について学んだあと、現地で水の透明度やにおいを確認し、魚やカニを見つけるとうれしそうに先生に報告する姿もみられました。

さらに、翌日の授業で、街中を流れる神代川の水質は改善してきているとはいえ、同町の山間を流れる山附川でやまつきがわの調査結果と比べて良好とは言えないことを知り、どうしたら神代川の河川環境がもっと良くなるのか真剣に考えていました。



整備が進む
現在の神代川



階段・スロープから
水際まで近づきやすく



トロッコ列車からの風景が
変化に富む自然の川に



水辺の散策や休憩・
お花見ができるように



あめのまない
天真名井前は神代川と
一体感のある空間に





スギコンテナ苗

スギコンテナ苗 の研修会を開催しました

西臼杵地区林業研究グループ連絡協議会（事務局：支庁林務課）では、2月18日（日）と23日（金）の2日にわたって、会員を対象にスギコンテナ苗の研修会を開催しました。

コンテナ苗は、専用のコンテナ（容器）に根と用土が納まった苗で、近年、需要が急激に増加しています。保水性がある用土の中で根がまとまっているため、畑で育てる露地苗と比べて価格は高いものの、植えやすく、かつ、根付きやすく、しかも、一年を通して植えることができます。

しかし、生産するには、発根を促すためにボラ土と水を入れた育苗箱に挿し木を行い、コンテナやビニールハウスも必要となるなど手間と費用を要するため、供給は追いついていません。このため、林業に関わる幅広い主体が生産できるよう技術を広め、供給を増やしていくことが喫緊の課題です。

研修会では、穂木（苗の元となる若い小枝）の取り方や、育苗箱への穂木の植え付け方について学んでもらい、「わかりやすく非常に参考になった」との声がありました。次回は5～6月頃に育苗箱からコンテナへの入れ替える研修を実施する予定です。

支庁では、このような取組も進めながら、再造林率日本一への挑戦を掲げる「グリーン成長プロジェクト」を推進していきます。



穂木の取り方を指導する様子

※ 林業研究グループ
林業経営者や森林組合の職員、素材生産事業者の従業員などで組織され、林業経営の改善及び林業技術の向上を主たる目的に活動しているグループ



博多駅マイング広場でのイベントの様子



道の駅通潤橋でのイベントの様子

山都通潤橋 ICまで開通した

九州中央自動車道 沿線地域の魅力をPR！



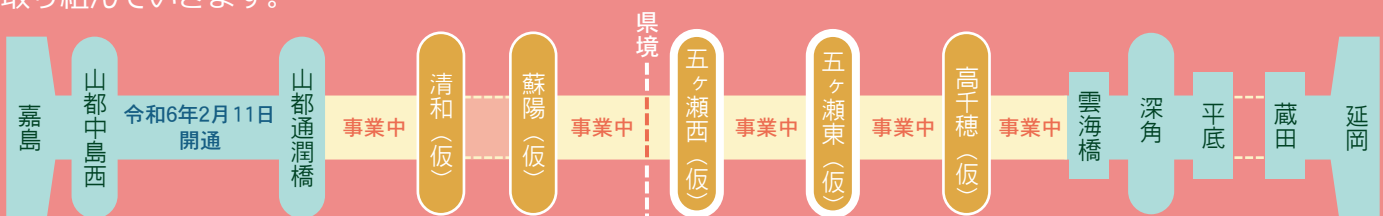
2月11日（日）の九州中央自動車道「山都中島西IC～山都通潤橋IC」開通をきっかけに、九州中央自動車道沿線地域（延岡市～御船町）の魅力を多くの人に知ってもらい、この地域を訪れていただこうと、沿線の自治体・団体は共同でPR活動に取り組んでいます。

3月2日（土）にJR博多駅のマイング広場で開催したイベントでは、沿線地域の特産品が数多く出品され、ワインの試飲や乾しいたけの詰め放題などにたくさんの方が足を止めていました。また、宮崎と熊本のご当地キャラ「みやざき犬のむうちゃん」と「くまモン」も登場し、特産品の紹介やパンフレットの配布などで会場を盛り上げました。

3月9日（土）には、山都通潤橋ICの目の前に新しく整備された「道の駅通潤橋」でPRイベントを開催しました。気持ちの良いドライブ日和で、駐車場が満車になるほどの多くの方にお越しいただき、見晴らしの良い屋外のベンチに座って、購入した特産品をおいしそうに頬張る姿も見られました。

九州中央自動車道については、宮崎県側に関しても、蘇陽～雲海橋間で事業化を進めており、今後も、宮崎・熊本両県をあげて国に早期全線開通を求めています。

また、ハード面の整備促進とともに、今回のイベントのような沿線地域の魅力発信にも、引き続き取り組んでいきます。



西臼杵フェイスブック 更新中！
「ウキウキ！好き好き！ニシウスキ！」

発行/宮崎県西臼杵支庁 編集/総務課
〒882-1101 宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井22
TEL 0982(72)2181 FAX 0982(72)3760



「高千穂郷」通信
3751825
神話伝説の山里

